

報告第11号

株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類の提出について
株式会社どまんなかたぬまの経営状況を説明する書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出します。

令和5年9月1日提出

佐野市長 金子 裕

理由

株式会社どまんなかたぬまから、別紙のとおり経営状況を説明する書類が提出されたので報告するものです。

参考

地方自治法抜粋

（財政状況の公表等）

第243条の3 …省 略…

2 普通地方公共団体の長は、第221条第3項の法人について、毎事業年
（株式会社どまんなかたぬま）

度、政令で定めるその経営状況を説明する書類を作成し、これを次の議会に提出しなければならない。

3 …省 略…

地方自治法施行令抜粋

（法人の経営状況等を説明する書類）

第173条の2 地方自治法第243条の3第2項に規定する政令で定めるその経営状況を説明する書類は、当該法人の毎事業年度の事業の計画及び決算に関する書類とする。

2 …省 略…

令和5年度

(株) どもんなかたぬま
事業計画書及び収支予算書

自 令和5年4月 1日

至 令和6年3月31日

【株式会社どもんなかたぬま】

英華大印

先以二以字爲先 (宋)

善與字多又此又善曲信孫母

一

二

三

令和5年度の日本経済は、経済活動の正常化を背景に内需を中心に持ち直し傾向にあるが、個人消費は、物価高により家計の購買力を下押しはあるものの、人手不足などによる賃金上昇を追い風に回復傾向が見込まれています。

このような状況において、「また来たくなる道の駅」を目指して、高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を追求して参ります。

具体的にはオリジナルスイーツなどの新商品開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

お取引先様と販売手数料改定の交渉や適正な価格、原材料の見直しで利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取組みます。

DXの導入で、業務遂行における生産性を上げ、従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、新店舗の導入や業態変更など時代の変化に対応した店づくりを行います。

施設内をお買物ゾーンやレストランゾーン等、ゾーニングで案内し、施設の回遊性を高めます。

「MORE STATION 計画」と題して、フォトスポットやモニュメント、神社など集客の為の話題づくりを積極的に実施致します。

企業価値を高める為に CI (コーポレートアイデンティティ) と VI (ビジュアルアイデンティティ) を構築。CI として企業理念や企業目標を更新し、それに基づいた行動指針を設定致します。VI として、ロゴデザインを更新し、公式ホームページのリニューアルを実施します。

部門ごとに最新情報を SNS で発信。動画を使用した情報発信も行い、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体戦略をデジタルとアナログの両面で実施して参ります。

引き続き、お客様が安心してご来店いただけるよう感染防止対策を徹底して行います。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。

そして名実ともに「日本一の道の駅」へまた一步近づく為に、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年度 株式会社 どまんなか たぬま 営業収支予算書

(単位 千円、%)

		2023年度予算	2022年度予測値	前年比	前年増減	
経常損益	営業収益	売上高	1,800,000	1,650,000	109.1%	150,000
		売上原価	1,233,000	1,143,000	107.9%	90,000
		売上利益	567,000	507,000	111.8%	60,000
		計	567,000	507,000	111.8%	60,000
	営業費用	人件費	280,000	268,000	104.5%	12,000
		消耗品費	10,000	9,000	111.1%	1,000
		地代家賃	400	550	72.7%	▲ 150
		保険料	7,000	6,600	106.1%	400
		保守修繕費	5,000	4,700	106.4%	300
		リース料	22,000	22,000	100.0%	0
		租税公課	6,500	6,300	103.2%	200
		減価償却費	21,380	19,380	110.3%	2,000
		旅費交通費	10,000	9,700	103.1%	300
		通信費	2,000	2,000	100.0%	0
		水道光熱費	63,000	57,300	109.9%	5,700
		支払手数料	21,000	18,000	116.7%	3,000
		どまんなかカードボーナス	5,000	4,400	113.6%	600
		広告宣伝費	15,000	11,600	129.3%	3,400
		接待交際費	1,500	1,500	100.0%	0
		清掃費	13,000	12,200	106.6%	800
運賃	1,100	950	115.8%	150		
雑費	75,000	64,300	116.6%	10,700		
計	558,880	521,450	107.2%	37,430		
営業損益		8,120	▲ 14,450	-56.2%	22,570	
営業外損益	収益	雑収入	16,000	27,650	57.9%	▲ 11,650
		太陽光売電収入	44,000	44,000	100.0%	0
	計	60,000	71,650	83.7%	▲ 11,650	
	費用	雑支出	40,000	37,500	106.7%	2,500
計		40,000	37,500	106.7%	2,500	
営業外損益		20,000	34,150	58.6%	▲ 14,150	
経常損益		28,120	19,700	142.7%	8,420	

第 2 0 期

事 業 報 告 書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

株式会社 どまんなか たぬま

栃木県佐野市吉水町366-2

16 01

發 行 冊 數 表

1990年1月1日

1990年1月1日

事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

1. 営業の概況

(1) 営業の経過及び成果

令和4年度の日本経済は、資源価格の高騰や急激な円安による物価上昇のため、消費者マインドの悪化、実質購買力の低下が懸念されたものの、新型コロナウイルス感染症に対する行動制限の緩和などに伴い、緩やかな回復基調を維持いたしました。世界経済では、ロシアのウクライナ侵攻の長期化、中国のゼロコロナ対策による経済活動の停滞による影響などにより、先行き不透明な状況下にありました。

このような状況の中、当社はウィズコロナの考え方の下、できる範囲での積極的な営業活動を行って参りました。

従業員に対しては、人材確保やモチベーション向上を目的とし、賃上げを実施。従業員は一律3%アップ、時間給は一律1,000円に設定しました。

営業面では全体での時短営業を継続。原価高騰による売価の変更と原価率の改善に取り組みました。

飲食部門では、メニューの改定と共に価格の見直しを実施。付加価値の確保と向上を取組みました。

製造小売部門では、ジェラート倶楽部が原材料の一部を自家製造に切り替え原価削減に成功。

雪ノ下 cafe&sweets では日光天然氷を使用したかき氷や、いちごを使用したメニューの提供を拡大しました。

イオンモール小山内に新店した食パン専門店を「うまい食パン小山店」に変更。同時にカレーパン専門店を止め、中津からあげのグランプリ獲得店である「からあげもり山」とFC契約を行い、業態変更しました。

イベント・販売促進として、物販イベントを強化。人気の北海道フェアでは、ミシュランガイド北海道 2017 の掲載店のラーメン店「竹馬（ちくま）」さんに出店交渉を行い、どまんかホールに特設厨房を設置し、期間限定のラーメン店を営業致しました。

九州フェアでは、大分、長崎をメインに新商品を展開。青森、秋田、岩手、宮城など東北を中心とした県単位の各セレクトショップと提携し、物産品フェアを定期開催しました。

この物産品フェアの開催告知をメインに年6回、各10万部の折込チラシを発行。

SNS委員会を中心にSNSでの情報発信強化発足。フォロワー数獲得と商品紹介、誘客、新規顧客、潜在顧客の開拓を行いました。

社会貢献面においては、協賛広告の出稿、市内学童野球大会への試合球提供などを継続して行いました。

DX導入プロジェクトでは、生産性向上を目的とし、売上処理、仕入入力、棚卸処理、シフト表、インフラ、クレジット端末と大きく6つのテーマを5人のメンバーで月2回、専門講師からレクチャーを受け、それぞれのテーマごとにプロジェクトを実施いたしました。

新たな取り組みとして、動画を使用した情報発信を行い、若い世代の集客や新規顧客獲得を目的とした動画マーケティングプロジェクトを立ち上げました。4人のメンバーが専門講師から、週1ペースで企画や撮影、編集の方法を習っております。

このように感染予防対策の継続とウィズコロナの考え方の両面で、営業施策を鋭意努力して行って参りましたが、原価高騰の煽りとエネルギーコストの急激な上昇の影響を受け、令和4年度の営業成績は、総売上高1,651,552千円（前年比104.0%）前年に対して64,035千円のプラス。

営業利益は△20,521千円（前年比△943%）前年に対してマイナス22,698千円、経常利益14,772千円（前年比36.3%）前年に対してマイナス25,881千円。

増収減益の結果で今期は終了いたしました。

(2) 会社が対処すべき課題

令和5年度の日本経済は、経済活動の正常化を背景に内需を中心に持ち直し傾向にあるが、個人消費は、物価高により家計の購買力を下押しはあるものの、人手不足などによる賃金上昇を追い風に回復傾向が見込まれています。

このような状況において、「また来たくなる道の駅」を目指して、高付加価値、高粗利の商品構成を強化。独自性や特長のある商品、サービスの提供を追求して参ります。

具体的にはオリジナルスイーツなどの新商品開発及び販売。他店舗、他企業とのコラボレーションで付加価値の高い商品、メニューの開発及び販売を行います。

お取引先様と販売手数料改定の交渉や適正な価格、原材料の見直しで利益率の改善を行い、更なるキャッシュフロー経営に向けて取組みます。

DXの導入で、業務遂行における生産性を上げ、従業員のスキルアップ及びお客様とのコミュニケーションの質の向上に注力して参ります。

施設面において、老朽化の改善を随時行うとともに、新店舗の導入や業態変更など時代の変化に対応した店づくりを行います。

施設内をお買物ゾーンやレストランゾーン等、ゾーニングで案内し、施設の回遊性を高めます。

「MORE STATION 計画」と題して、フォトスポットやモニュメント、神社など集客の為の話題づくりを積極的に実施致します。

企業価値を高める為にCI（コーポレートアイデンティティ）とVI（ビジュアルアイデンティティ）を構築。CIとして企業理念や企業目標を更新し、それに基づいた行動指針を設定致します。VIとして、ロゴデザインを更新し、公式ホームページのリニューアルを実施します。

部門ごとに最新情報をSNSで発信。動画を使用した情報発信も行い、新規顧客の獲得及び誘客を積極的に実施致して参ります。

年6回、折込みチラシを発行し、地域に根付いた媒体戦略をデジタルとアナログの両面で実施して参ります。

引き続き、お客様が安心してご来店いただけるよう感染防止対策を徹底して行います。

このような取り組みを行い、「顧客満足・従業員満足・独自性・社会貢献」の4つの視点で、積極的な営業展開を図り、更なる顧客確保、収益向上、安定経営に向けて取組む所存でございます。そして名実ともに「日本一の道の駅」へまた一歩近づく為に、従業員一丸となって邁進して参ります。

何卒、株主の皆様におかれましても倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2.会社の概況（令和5年3月31日現在）

(1) 主要な事業内容

当社は主として次の事業を営んでおります

- ① 道の駅施設の管理運営
- ② 小売業並びに飲食業

(2) 株式の状況

- ① 株式の総数 2,256 株
発行済株式数 614 株
- ② 株主数 7 名
- ③ 株主

株 主 名	当社への 出資状況		当社の大株主 への出資状況	
	所持 株式数	持株 比率	所持 株式数	持株 比率
佐野市	500 株	81.4%	—	—
佐野農業協同組合	40 株	6.5%	—	—
佐野市あそ商工会	20 株	3.3%	—	—
佐野信用金庫	20 株	3.3%	—	—
株式会社足利銀行	20 株	3.3%	—	—
株式会社群馬銀行	10 株	1.6%	—	—
みかも森林組合	4 株	0.6%	—	—

(3) 自己株式の取得、処分等および保有

【取得株式】

記載すべき事項はありません。

【処分株式】

記載すべき事項はありません。

【保有株式】

普通株式 株式会社足利銀行 10,000 株
保有価格の総額 4,200 千円

(4) 主要な借入先

(令和5年3月31日現在)

借入先	借入額 (千円)	借入残高 (千円)	借入先が有する当社の株式の 数及び議決権比率	
足利銀行 田沼支店	800,000	482,620	20 株	3.3%
足利銀行 田沼支店 社債	50,000	40,000		
佐野信用金庫 田沼支店	20,000	20,000	20 株	3.3%
みずほ銀行 足利支店	50,000	29,260	0 株	0%
日本政策金融公庫	100,000	80,680	0 株	0%

(5) 企業結合の状況

記載すべき事項はありません。

(6) 従業員の状況

(令和5年3月31日現在)

	正社員	嘱託	パートナー	アルバイト	派遣	合計
男子	13	7	4	7	1	32
女子	11	2	52	19	2	86
計	24	9	56	26	3	118
内、外国人	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)

※パート従業員の事を弊社では「パートナー」と読んでいます。

(7) 事業所

本店：栃木県佐野市

小山店：栃木県小山市（イオンモール小山店専門店街1階）

(8) 取締役及び監査役

(令和5年3月31日現在)

地 位	氏 名	担当又は主な職業
代表取締役社長	篠原 敏秀	株式会社 どまんなか たぬま
取締役	松本 常治	佐野あそ商工会
取締役	小倉 浩史	佐野市
取締役	佐瀬 芳治	佐野農業協同組合
取締役	相子 正幸	みかも森林組合
監査役	石原 一行	司法書士

貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

(単位：円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
【流動資産】	【 419,082,848】	【流動負債】	【 156,405,813】
現金及び預金	313,811,977	買掛金	66,326,541
売掛金	36,986,753	未払金	43,053,249
商品	8,474,904	未払費用	3,024,051
原材料	29,647,730	前受金	12,987,937
貯蔵品	17,089,431	仮受金	29,521
立替金	3,794,100	預り金	4,078,914
未収入金	9,237,973	未払法人税等	1,123,800
仮払金	12,400	未払消費税等	11,381,800
前払費用	27,580	賞与引当金	14,400,000
【固定資産】	【 735,239,677】	【固定負債】	【 652,560,000】
(有形固定資産)	(662,392,385)	長期借入金	612,560,000
建物	214,599,232	社債	40,000,000
建物付属設備	62,161,816		
構築物	176,952,403	負債の部計	808,965,813
機械装置	174,572,988		
車両運搬具	1,902,843		
工具器具備品	19,041,672	純資産の部	
土地	11,953,658	【株主資本】	【 352,096,022】
一括償却資産	1,207,773	[資本金]	[30,700,000]
(無形固定資産)	(396,667)	[利益剰余金]	[321,396,022]
無形固定資産	396,667	利益準備金	4,551,500
(投資その他の資産)	(72,450,625)	(その他利益剰余金)	(316,844,522)
投資有価証券	4,200,000	別途積立金	10,000,000
出資金	50,000	繰越利益剰余金	306,844,522
長期前払費用	55,173,287	(うち当期純利益)	(9,784,181)
保証金	12,899,000		
事業保険積立金	128,338		
【繰延資産】	【 6,739,310】	純資産の部計	352,096,022
繰延資産	6,739,310		
資産の部計	1,161,061,835	負債・純資産の部計	1,161,061,835

損益計算書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	金 額	
【 売 上 高 】		
売 上 高	1,644,087,942	
販 売 手 数 料	7,354,632	
施 設 使 用 料 収 入	109,091	1,651,551,665
【 売 上 原 価 】		
期 首 棚 卸 高	7,805,598	
仕 入 高	1,001,077,266	
当 期 製 品 製 造 原 価	148,586,046	
合 計	1,157,468,910	
期 末 棚 卸 高	8,474,904	1,148,994,006
売 上 総 利 益		502,557,659
【販売費及び一般管理費】		523,078,751
営 業 利 益		△20,521,092
【 営 業 外 収 益 】		
受 取 利 息	2,500	
受 取 配 当 金	111,000	
雑 収 入	72,703,010	72,816,510
【 営 業 外 費 用 】		
支 払 利 息 割 引 料	3,544,855	
減 価 償 却 費	33,291,751	
現 金 過 不 足	272,676	
太 陽 光 保 守 修 繕 費	414,000	37,523,282
経 常 利 益		14,772,136
【 特 別 利 益 】		
固 定 資 産 売 却 益	415,940	415,940
【 特 別 損 失 】		
固 定 資 産 売 却 損	75,595	75,595
税 引 前 当 期 純 利 益		15,112,481
法 人 税 住 民 税 事 業 税		5,328,300
当 期 純 利 益		9,784,181

個 別 注 記 表

自 令和 4年4月 1日

至 令和 5年3月 31日

株式会社 どまんなか たぬま

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

[資産の評価基準及び評価方法]

棚卸資産の評価基準及び評価方法

原材料・仕掛品・製品・・・・・・・・最終仕入原価法

商品・貯蔵品・・・・・・・・最終仕入原価法

[固定資産の減価償却の方法]

有形固定資産・・・・・・・・建物、建物付属設備、構築物は定額法、
それ以外は定率法により減価償却している。

[収益及び費用の計上基準]

収益は実現主義、費用は発生主義により計上している。

[その他計算書類の作成のための基本となる重要な事項]

①消費税等の会計処理

税抜方式で計上している。

2. 株主資本等変動計算書に関する注記

[発行済株式の種類及び総数に関する事項]

発行済株式

614 株

[配当に関する事項]

当事業年度に行った剰余金の配当に関する事項

令和4年6月21日の定時株主総会

配当金の総額 3,070,000 円

1株当たり配当金 5,000 円

配当基準日 令和4年3月31日

効力発生日 令和4年6月21日

当事業年度後に行う予定の剰余金の配当に関する事項

令和5年6月23日の定時株主総会

配当金の総額 1,535,000 円

1株当たり配当金 2,500 円

配当基準日 令和5年3月31日

効力発生日 令和5年6月23日

株主資本等変動計算書

株式会社 どまんなか たぬま

自 令和 4 年 4 月 1 日
至 令和 5 年 3 月 31 日
(単位：円)

	株 主 資 本										
	資 本 金		資 本 剰 余 金		利 益 剰 余 金		自 己 株 式		株 主 資 本 合 計		純 資 産 合 計
	資 本 金	資 本 準 備 金	そ の 他 資 本 剰 余 金	利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	株 主 資 本 合 計	評 価 ・ 換 算 差 額 等 合 計	新 株 予 約 権			
当期首残高	30,700,000			4,244,500	310,437,341	345,381,841			345,381,841		
当期変動額											
剰余金の配当				307,000	△3,377,000	△3,070,000			△3,070,000		
当期純利益					9,784,181	9,784,181			9,784,181		
当期変動額合計				307,000	6,407,181	6,714,181			6,714,181		
当期末残高	30,700,000			4,551,500	316,844,522	352,096,022			352,096,022		

	利 益 剰 余 金 の 内 訳				利 益 剰 余 金 合 計
	利 益 準 備 金	別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金	そ の 他 利 益 剰 余 金	
当期首残高	4,244,500	10,000,000	300,437,341		314,681,841
当期変動額					
剰余金の配当	307,000		△3,377,000		△3,070,000
当期純利益			9,784,181		9,784,181
当期変動額合計	307,000		6,407,181		6,714,181
当期末残高	4,551,500	10,000,000	306,844,522		321,396,022

監査報告

私、監査役は、令和4年4月1日から令和5年3月31日までの第20期事業年度の貸借対照表、損益計算書、株主資本変動計算書、個別注記表、事業報告および、附属明細書を監査しました結果、適法かつ正確であることを認めます。

令和5年5月19日

株式会社 どもんなか たぬま
監査役 石原 一行 ㊟

報告書

前記のとおりご報告申し上げます。

令和5年6月23日

株式会社 どもんなか たぬま
代表取締役社長 篠原 敏秀
取締役 松本 常治
取締役 佐瀬 芳治
取締役 相子 正幸